



令和4年7月号

おひさま

八代市教育サポートセンター

子ども支援相談室便り

令和4年7月号

文責 江藤紀子

未来の幸せにつながる子育て

子どもの「今」の状況を安全で過ごしやすいものにしてあげたいと願う親心で、口を出し過ぎたり手を出し過ぎたりしてしまうことがあります。

子どもの本当の幸せは、「未来」にあります。「今」を幸せにすることばかりを考えていると、子どもから自主性を奪い、未来の幸せにはつながらなくなることがあります。

ちょっと立ち止まって子育てを振り返ってみましょう。



振り返り1 「まだ保護者か、もう親か？」

赤ちゃんは、何もできないので、保護者が完全保護しています。しかし、いつまでも保護しては、子どもは「できない子」のままです。

子どもの成長に応じて親も保護者から親へと成長し、保護することから、自立を促し見守ることへと子育ての方法を変えていく必要があります。

振り返り2 「それは、ヘルプか、サポートか？」

「ヘルプ」は、できない人に代わってすることです。「サポート」は、できる人を見守り、必要に応じて援助してあげることです。

子どもは、できない子として「ヘルプ」を受けつづけると、「できない子」のままでいるしかありません。子どもを「できる子」として苦しいことも楽しいことも体験させて見守り、必要な時だけサポートすることが大切です。



振り返り3 「それは、甘やかしか、甘えの受け入れか？」

「甘やかし」は、ヘルプです。できない子として親が代わって大切なことをやっています。

「甘えの受け入れ」は、ふと親にスキンシップを求めてきたり、「あのね」と話しかけてくるときに応えてあげる必要な精神的サポート、やり方を教えるなどの自立へのサポートです。



「ヘルプ」or「サポート」を受け続けると、どうなるでしょう・・・裏面へ

「ヘルプ」or「サポート」を受け続けると

「ヘルプ」を受け続けると

「ヘルプ」は、・朝起こしてあげる・「服を片付けてあげる・時間割をしてあげるなど、「できない子」として子どもがすべきことをしてあげています。子どもは、できないまま成長してしまいます。誰かが面倒を見てくれると誤った解釈をしてしまい、自立ができません。そして、将来自分が「できない」ことに気付いて困ったり、心が傷ついたりすることがあるかもしれません。



「サポート」を受け続けると

「サポート」は、「できる」と信じてすることです。そのため、子どもは、自分に自信をもつことができます。代わりにやってあげるのではなく、そのやり方を教えてサポートしていくので、一つずつ自分でできるようになっていきます。自分の力で生きることができ、自分でできないことは素直に援助を求める人に成長するのではないかと思います。



親が子どもにヘルプしがちなことTop4

- 1 子どもがすべきことを指示する
- 2 子どもが求めているものを察して与える
- 3 どう感じるべきかを教える
- 4 子どもの問題を親が解決する

(参考文献「子どもの心のコーチング」)



こどもなやみそうだん



スマホから、なまえやかおをしられずに、なやみのそうだんができます。 右上のQRコードをよみとってそうだんしてください。

※すぐにメールのへんしんができないときがあります。

子育て相談 (不登校など)

●相談方法

- ・電話 0965-33-6145 (相談室直通)
- ・メール kodomo-sien@yatsushiro.jp
- ・面談 やつしろ子ども支援相談室

(八代市役所4階教育サポートセンター内)

●相談時間 月～金曜日 午前9時～午後2時

※相談無料。匿名で相談できます

